

新札幌循環器病院



予防と社会復帰に向けた心臓リハビリテーションにも力を注ぐ、循環器系疾患の専門病院

高度医療に基づく循環器系疾患の専門病院 内科・外科のチーム医療でよりよい治療を

「患者さまの健康な生活を支えることを目的として、患者さま中心の良質な医療の提供を」を理念に、循環器系疾患の専門病院として地域に密着し、専門医を中心とした高度な医療体制を構築している新札幌循環器病院。緊急対応が必要な急性心筋梗塞、狭心症、大動脈疾患などについては日夜を問わず、随時受け入れ可能である。道内では数少ない、高速回転冠動脈アテレクトミーによる高度石灰化病変に対

する治療が行える施設でもある。血管が瘤のようにふくらみ、破裂すると致命傷となる大動脈瘤に対しては、通常の人工血管置換術に加え、ステントグラフトを用いた血管内治療を積極的に実施。身体への負担を極力減らし、短期間（1〜2週間）での社会復帰を可能にしている。

2010年12月には大動脈弁膜症に対して、東邦大学の尾崎重之教授の協力のもと、自己心膜を用いた大動脈弁形成術を道内で初めて実施し、これまでに良好な成果をあげている。この手術はその後さまざまな利点が認められ、世界中に広がっている。

不整脈に対するペースメーカー治療や除細動器の植え込み、重症心不全に対する心臓再同期療法も症例が増加し、足の冷感やしびれなどで発症する末梢血管や静脈瘤の対する治療を加えると、総手術件数は年間700件（16年度）を越える。腎臓専門医も配置し、健診での尿検査異常の二次検診を受け付け、正確な診断を行っている。末期腎機能障害に対しては、透析導入し、きめこまかい維持透析管理を行っている。



64列マルチスライスCTでは、心臓カテーテル検査に代わって、冠動脈造影検査を行うことができる



より解像度の高い造影検査を可能とするフラットパネルの血管造影装置

専従の理学療法士は5人で、再発予防と社会復帰に向けた心臓リハビリテーションに力を注いでいる。「たとえ同じ病名であっても、一人ひとりの患者さんの背景、求めるところはさまざまです。それぞれの患者さんに最適なオーダーメイド治療を、スタッフ一同が協力、実践していきます。」と神吉和重院長は話す。



院長 神吉 和重

1989年防衛医科大学卒業。自衛隊札幌病院、ドイツ心臓センター・ベルリン、岡山大学心臓血管外科、札幌医大第二外科、市立札幌病院心臓血管外科などを経て、2009年新札幌循環器病院心臓血管外科部長。16年7月院長に就任。心臓血管外科専門医。医学博士。東邦大学医学部客員教授

INFORMATION

所在地 札幌市厚別区厚別中央2条4丁目9-25 ☎011-892-1556
診療科目 心臓血管外科、循環器内科、腎臓内科、人工透析内科、胸部外科、リハビリテーション科
受付時間 月～金 8:45～11:30
 13:30～16:30
 土 8:45～11:30
休診日 日、祝日 **駐車場** 有（18台）
アクセス JR・中央・夕鉄バス「新札幌バスターミナル」下車徒歩約5分、地下鉄東西線「新さっぽろ駅」5番出口から徒歩約5分、JR「新札幌駅」下車徒歩約5分
理事長 佐々木 孝
院長 神吉 和重
H P <http://www.sshoc.jp/>

